

ご挨拶

モンゴル・日本人材開発センター
所長 森川秀夫



皆さま、こんにちは。「2011年日本語教育シンポジウム」の開会にあたりまして、このシンポジウムを共催いたしますモンゴル・日本人材開発センターを代表して一言ご挨拶を申し上げます。

モンゴル日本センターは、モンゴルの人材育成に協力し、日本とモンゴルの相互理解を促進することを目標として、JICA(国際協力機構)とモンゴル国立大学の共同プロジェクトとして、2002年から活動をおこなっています。活動を開始して今年が10年目になります。具体的な活動としましては、モンゴルが市場経済化を進めるうえ必要とする企業経営者の育成や様々な日本語教育活動を実施しております。

実施しております。

日本語教育につきましては、教師を養成するための講座や学習者のニーズに応じたコースを実施してまいりました。昨年からはサバイバルコースおよび初級コースを新たに開講しまして、より多くの学習者のニーズに対応するように努めております。

多くの日本語学習者は、日本へ留学するために日本語を学んでいます。日本センターではこのような声に応じて、昨年10月、日本の5つの大学に参加していただき、「日本留学フェア」を初めて開催しました。500名近くの方々に参加していただきました。今年は昨年を上回る9つの大学の参加を得まして、11月に実施する予定です。

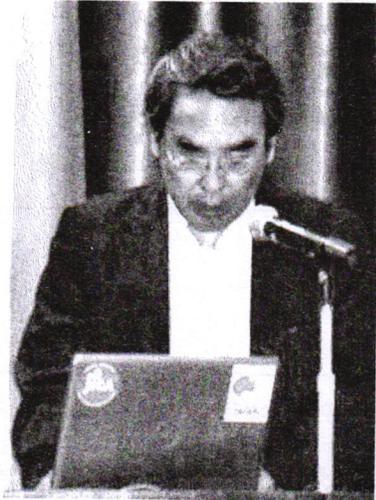
モンゴル・日本センターでは、今後ともモンゴル日本語教師会と連携しながら日本語教育の充実に努めるとともに、日本の留学情報の提供に力を入れてまいります。

この日本語教育シンポジウムは、モンゴル・日本センターの設立5周年を記念する行事として、2007年に第1回目が開催され、今回は第5回目となります。本日は東京学芸大学の斎藤先生、明日は東京外国語大学の坂本先生と伊集院先生にご講演をいただくことになっています。

このシンポジウムによりまして、日本語教育の実践的な成果が共有されるとともにモンゴルにおける日本語教育がますます発展することを祈念いたしまして、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

ご挨拶

在モンゴル日本国大使館
参事官 日野耕治



本日は、国際交流基金の日本語普及活動助成プログラムによる日本語教育シンポジウムが開催されますことに心からお喜び申し上げます。

現在モンゴルでは、およそ1万人の方が日本語を学習しておられると伺っております。これは、本日お集まりの日本語教師の方々のご尽力の賜に他なりません。今月9日には、10年以上日本語を教えられているモンゴルの日本語教師の先生方20名に対して、その功績を表彰し城所大使名の感謝状授与式を執り行いました。各先生方には、長きにわたり、当地での日本語教育の促進に多大なご貢献を賜り、あらためて感謝をいたしました次第です。

さて、国際交流基金の海外日本語教育機関調査によりますと、日本語学習の目的として、初等・中等教育における日本語学習者からは、日本語そのものへの興味や、マンガなどの文化面への興味があげられていますが、高等教育の段階では一転して、「将来の就職」が多数を占めております。モンゴルの場合、まさにこの「将来の就職」としての日本語を活かせる職場が少ないことから、日本語学習者数が減少傾向にある、と日本語教育関係の方々から常々伺うところであります。

しかしながら、先般就任された玄葉外務大臣が、今年1月、国家戦略大臣としてモンゴルを訪問した折には、帰国留学生と懇談する機会があり、帰国留学生の当地における活躍につき非常に感銘を受けておられました。日本語学習を、日本の経済や技術、社会制度などを学ぶ入り口として、つまりモンゴル社会の発展に貢献できる人材育成のための基礎として捉えることも重要です。就職の機会だけに依らずとも、日本語学習がさまざまな可能性を秘めていることが理解される必要があると考えます。そして何より、今シンポジウムが成功裏に行われ、モンゴルにおける日本語教育の一層の充実に資するものとなるよう、祈念いたします。

最後になりましたが、遠路はるばるお越し頂きました東京学芸大学の齋藤先生、東京外国語大学の坂本先生、伊集院先生、またドルゴル会長はじめモンゴル日本語教師会の皆様、その他ご列席の皆様の今後のご活躍と、モンゴル日本語教師会の更なる発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。